第17回町田市会計基準委員会 議事要旨

日時	2024年7月16日（火）　午後3時00分～午後4時30分
場所	町田市役所市庁舎2階2-4会議室
出席者	【委　員】鵜川正樹委員長、中村委員 【事務局】会計課 【傍聴者】なし

1　開会

会計管理者から開会挨拶

委員長の選任（町田市会計基準委員会設置要綱第5第1項の規定に基づき、委員の互選により鵜川正樹委員に決定）

2　資産照合の結果について

・ 事務局から「資料１」の説明

・ 質疑応答

【主な内容】

＜還付未済について＞

中村委員　：官庁会計決算の「収入未済額」に「収入済額中還付未済額」を加えた額と、財務諸表の「未収金」とが一致する理由を確認したい。還付未済が発生するときの仕訳、及び官庁会計上の動きはどのようになるか。

事務局　　：以下のとおり説明。

■還付未済の仕訳（例：地方税）

１　収入　　（借方）現金100円／（貸方）税未収金100円

２　決算整理仕訳　　（借方）税未収金100円／（貸方）還付未済金100円

■官庁会計上の動き

１　収入　　調定0円-収入100円＝収入未済額△100円

＜出資金について＞

中村委員　：一般会計から下水道事業会計への出資金はないか。

事務局　　：一般会計から下水道事業会計への出資金はないが、繰出金がある。

＜建設仮勘定の確認について＞

鵜川委員　：建設仮勘定について、古いもので残高が残っていないか。

事務局　　：事業が継続しており、完成していないものについては数年前のものであっても残っている。完成しているにも関わらず処理が漏れているものはないという認識である。

鵜川委員　：確認はしているのか。

事務局　　：月次決算整理の中に建設仮勘定の残高を照合する項目がある。各課が確認するとともに、会計課でもその結果を確認している。

＜鶴川南土地区画整理事業会計の建設仮勘定について＞

鵜川委員　：どのような事業を行うのか。

事務局　　：バスターミナルや橋を整備するもの。ほとんど道路資産だと推測できるが、詳細は別途確認する。

（委員会後確認）

■鶴川駅南土地区画整理事業会計の建設仮勘定として、約 3 億円が計上されている。主な内訳は、鶴川駅南口の市街地整備のための物件移転補償、雨水調整池の設計委託等が約 2 億円となっており、これらは将来、インフラ資産として計上される予定である。鶴川駅周辺街づくり事業（一般会計および鶴川南土地区画整理事業会計で実施）は、2031 年度の完了を目指して事業を進めており、土地区画整理事業以外では、北口交通広場や南北自由通路の整備に向けて工事を行っている。

3　財務諸表の内容について

・ 事務局から「資料 2」の説明
・ 質疑応答

【主な内容】

＜行政コスト計算書について＞

中村委員　：当期収支差額が昨年度から約 90 億円減少した理由は。

事務局　　：主な要因は、新型コロナウイルス感染症に関連するものが減少したことにより、国庫支出金が 39 億円減少したことや、新型コロナウイルス予防接種事業の国庫支出金を 40 億円返還したことである。また、町田市では、保育所等の定員数の増加に取り組んでおり、認可保育所・小規模保育所の新規開設に伴い、保育所等に係る扶助費が増加している。

鵜川委員　：保育料の利用者負担額について、入所児童が 2 人目からは無償化されているのか。

事務局　　：0～2 歳児クラスについて、2023 年 10 月以降は 2 人目から無償化されている。3～5 歳児クラスは 2023 年 9 月以前から 1 人目から無償化されていた。

鵜川委員　：収支差額の赤字が増えているが、新型コロナウイルス感染症の要因を除くと財政状況はどうなのか。

事務局　　：新型コロナウイルス感染症は多岐に影響するため、要因を除くのが難しい。ただ、減価償却費が 73 億円あることなどが影響し、収支差額黒字にはなりにくいと思う。

＜キャッシュ・フロー計算書について＞

鵜川委員　：基金の状況はどうか。

事務局　　：2023 年度は基金からの取崩し金が 66 億円、基金への積立てが 83 億円

で、積立ての方が多い。大規模な施設の整備があるので歳出は増えていくが、財政課では取崩しの額を減らそうとしている。臨時財政対策債は過去には10億円ほど借りていたが、2023年度は1億円くらいまで減らしている。臨時財政対策債の上限自体が減少しているのもあるが、上限まで借りないようにするという考えが財政課ではあるようだ。

鵜川委員　：金利が上がっていく影響は考えているのか。

事務局　　：金利が上がることでキャッシュ・フローが厳しくなることも見込んでいる。

鵜川委員　：日銀の政策が実現すれば2029年頃に金利が2.5%くらいになる可能性もある。資金運用はどのようにしているのか。

事務局　　：歳計は定期預金、基金は債券と定期預金で運用している。

鵜川委員　：いわゆるラダー型の運用であれば、金利の影響を受けにくいと考えられる。

事務局　　：５年と10年の債券でラダーを構築しているところである。2024年度は一気に状況が変化し、いわゆる「金利のある世界」になった。

鵜川委員　：運用額はどのくらいか。

事務局　　：債券の運用額は約100億円である。

鵜川委員　：地方債残高の方が運用額より多く、借入期間も長い。その分を運用で取り返すのは難しいと思う。公営企業会計の借入は、より期間が長くなるのではないか。

事務局　　：公共施設整備についての借入は期間が長い。例えば、病院事業会計では、建て替えについて20年くらいの期間で借入をしている。また、医療機器で大きいものは耐用年数に合わせて借入している。状況の変化が速いため、発行する側も20年債や30年債という長期の債券の発行には踏み切りにくくなっている。そのため、ハード系の事業債が短めの年限に切り替えられている傾向はある。

＜貸借対照表について＞

鵜川委員　：流動資産が44億円減少した理由は。

事務局　　：行政コスト計算書の当期収支差額が減少した理由と同様、新型コロナウイルス感染症に関連する国庫支出金が減少したことや、予防接種事業の国庫支出金を返還したことが要因である。

鵜川委員　：インフラ資産が19億円増加した理由は。

事務局　　：工作物が12億円増加している。玉川学園前駅デッキ及びエレベーターを資産登録したことで5.9億円、私道であった開発道路等が移管され、資産登録したことで5.8億円増加している。

鵜川委員　：建設仮勘定が27億円増加した理由は。

事務局　　：バイオエネルギーセンターの施設整備工事により14.4億円増加している。また、鶴川駅北口広場整備により5.5億円、旧忠生第六小学校解体工事により3.8億円、鶴川駅南土地区画整理事業により3億円増加して

いる。

鵜川委員　：投資その他の資産が 20 億円増加した理由は。

事務局　　：公共施設整備基金積立金が 12.2 億、退職手当基金積立金が 4.7 億、多摩都市モノレール基金積立金が 2.5 億増加した。

＜国民健康保険事業会計・下水道事業会計の財政状況について＞

中村委員　：国民健康保険事業会計の繰入金・繰出金は、行政コスト計算書のどこに計上されているか。

事務局　　：特別会計については、一般会計からの繰入金及び一般会計への繰出金を、「当期収支差額」の下に掲載している。

中村委員　：国民健康保険事業会計・下水道事業会計の法定外繰入の状況は。

事務局　　：一般会計から繰出しているが、詳細は確認する。

（委員会後確認）

■国民健康保険事業会計

国民健康保険事業の費用のうち保険税等で賄う収入が例年不足し、この赤字を、市税等を財源とした一般会計からの繰入で補てんしている。国民健康保険事業会計は、保険給付費や納付金などの歳出を、保険税や交付金などの歳入で賄い運営する独立採算が原則である。そのため、国民健康保険の財政健全化に向け、赤字額の計画的・段階的な削減に取り組んでいる。

■下水道事業会計

下水道事業の一般会計からの繰入金は減少傾向ではあるが、本来は下水道使用料によって賄うべき部分への補填として繰り入れている基準外繰入がある。公営企業としての独立採算を保つために、基準外繰入を 2030 年までに段階的に削減していく計画である。

＜「統一的な基準」に基づく財務諸表の作成について＞

鵜川委員　：作成に手間がかかるのではないか。

事務局　　：エクセルのシートに町田市の財務諸表の計数を入力していくと、総務省の「統一的な基準」に基づく財務諸表ができる仕組みを作っているため、特に労力は要しない。

鵜川委員　：金額が大きく変わるのはどこか。

事務局　　：道路資産である。道路については受贈分の残高を 1 円に組み替えする処理などがあるので、道路部と情報共有しながら作成している。

＜自治体間比較の状況は＞

鵜川委員　：今年度の状況は。

事務局　　：例年に引き続き、事業別分析は財政課、財務諸表は会計課が参加して自治体間比較を行っている。自治体間比較については、東京都を中心に模

索している状況である。

＜行政評価シートの活用について＞

鵜川委員　:「課別・事業別行政評価シートは」予算編成に活用されているのか。

事務局　　:予算編成時に作成する「各部の予算要求概要等（調書）」の中で、行政評価シートに掲げた課題に対する予算措置状況を記載する項目がある。また、議会の決算審査に用いられているのは、町田市のアドバンテージであると認識している。

＜「町田市の財務諸表」概要版について＞

鵜川委員　:概要版は今年度も作成するのか。

事務局　　:作成中である。今日いただいたご意見を可視化して、特徴を分かりやすくお示ししたい。

＜町田市の人口について＞

鵜川委員　:現状と今後の予測はどうか。

事務局　　:数年前から減少しており、今後も減少していく予測である。流入人口は増加しているが、出生数が減少している。今後どう人口を保っていくかは課題である。

4　その他

・特になし

以上